

指定管理者の名称 公益財団法人 台東区芸術文化財団
所管部課 文化産業観光部 文化振興課

評価委員会による評価

1 評価の観点

「評価の観点」(1)～(4)における委員会の評価については、委員会の合議により決定した。

「委員のコメント」及び「評価委員会から区への意見」については、評価の過程における多様な意見を報告書に反映するため、各委員から出された様々な意見を記載している。

(1) 事業の運営

委員会の評価	S	(【参考】区の評価：S)
--------	---	--------------

委員のコメント

良い点
<p>収蔵品がすばらしい。「文字」をめぐる、甲骨文から現代に至るまで、古今の東アジアの多様な資料が集められており、しかも、その状態がきわめてよく、間近で見られるという点も高く評価できる。中村不折の「文字」への愛情が本館に充ち満ちていて、非常にユニークな博物館になっている。</p> <p>ここにしかないものが大量にあり、本館の潜在的な力を感じさせられる。企画展を増やし、学芸員スタッフのネットワークを駆使した広報活動にも力を入れており、その結果、入館者数も増えていることが評価できる。</p> <p>施設の扱うテーマの専門性を生かして、年間パスポートの発行等、来館者拡大のための対策を実施している。国立博物館等、他の文化施設との連携も積極的に行っている。結果としての入館者の増が達成できた点が評価できる。</p> <p>中村不折・生誕 150 年記念展「 前編 6/10～9/14 不折作品を中心に 後編 9/9～12/16 不折コレクションを中心に」は意欲的な展示となっており、内容も良かった。</p>

改善すべき点

パンフレットが書に携わっている人にしか伝わらないようなものだった点は残念。もっとビジュアル化し、ここの収蔵品の多様さやおもしろさが伝わるものにすれば確実に入館者も増えると思う。

中村直筆の収蔵品メモを解説として使ってあったのは、その息吹が感じられて面白かった。こうしたメモ自体を展示の一部として位置付けて、解説は別途見やすく、日英二カ国語で作り直してもいいように感じる。

その他

コレクションが多すぎて全貌が不明とのことだったが、文字や書を専門とする研究者を巻き込み、外部資金の導入も視野に入れ、アルバイトを雇うなどして、早急に収蔵品リストを作ると良いのではないかと思った。そうしたリストを作成し、公開したりすることは、本館の価値を内外に知らしめることにもなるだろう。それによって利用者数、利用方法も多様に広がると思う。

他の施設と比較しても、来館までのアプローチが圧倒的に長く、かつ分かりにくい立地で入館者数の増を達成したことは、関係者の相当の苦勞がわかる。

(2) 施設の維持管理

委員会の評価

A

(【参考】区の評価：A)

委員のコメント

良い点

中村自身が作った築 80 年にもなる本館を維持、管理・運営していくのは困難を伴うと思うが、狭いながらも充実した展示スペースとして活用している点に努力が感じられる。

収蔵品は紙等の経年変化の影響を大きく受けるものも多いが、品質保護のための適切な管理がなされている。

本館、記念館、中庭とも保守管理され、また清掃も十分に行われている。

改善すべき点

品質保護のため、仕方がない部分もあるが、展示室が全体的にうす暗く、展示物の説明文もよく読めないところもある。

(3) 利用者の満足度

委員会の評価

S

(【参考】区の評価：S)

委員のコメント

良い点

入館者の増は、年間パスポートの購入者・利用者が多く、確実にリピーターが存在しているという印象を受ける。「また来たい」と思わせる中身を持っているというのはすばらしい。

4館の中で、唯一アンケート回収率が1割を超えていて、利用者の満足度の高さをうかがわせる。

展示物の内容が充実しており、書道関係者以外の人でも楽しめる内容になっている。貴重な展示物も多く、それが入館者にも評価されている。また日本各地からの書道関係者を集めており、それらの関係者の評価も高い。

台東区観光ボランティアガイドの研修を本館で実施した。学芸員の説明は分かりやすく会員に好評だった。また、本館にも骨、瓦、青銅器、四角い石、板碑などに書かれた文字など、文字の歴史、書体の歴史などに展開できる情報がたくさんある。

アンケートにある、「何で館を知ったか」の問いに、「ホームページや新聞」と回答があったことは、素晴らしい発信力と評価できる。

改善すべき点

音声ガイドの利用率が日本語版、英語版合わせて0.38%と低いので、コストパフォーマンスを考えると、音声ガイドサービスを行う必要があるかどうか検討した方がよい。利用率を上げるためには、どうすれば使ってもらえるか考える必要があるだろう。「書」という展示の性格上、「聞く」より、展示を「見」たり、「読」んだりしようとする人が多いことも一因かもしれない。ほかにも料金設定や、広報の仕方の問題かもしれない。多角的に検討し、より良いサービスのあり方を模索してほしい。

アンケートの指摘事項である、順路の分かりやすさ、館内の明るさ、展示物の見やすさについて、不満とを感じる人が比較的多かったため、改善を早急に行う必要がある。

展示を第一とし、その解説を見やすくし、不折直筆の解説は、展示の一部とするべき。

リーフレットの濃い紫色は見にくい。色使用について検討してもらいたい。

その他

本館は、私有資料館の自治体への譲渡という経緯もあり、バリアフリーに関しては、対処が遅れていることがやむを得ないところがあるが、その旨をあらかじめ入館者に開示しておく必要もあるかも知れない。

特別休館日がすぐに分からないので、ホームページ上のトップページで分かるよう、休館日の日程を掲載してほしい。

(4) 収入支出

委員会の評価

A

(【参考】区の評価：A)

委員のコメント

良い点

入館者数の増加が、入館料の増加につながっている。グッズの売り上げも堅調とのことで、書を専門とする人たちの心に響くグッズ作りがされているものと思われる。

予算、決算の状況においては、適正な予算執行に取り組まれており、指定管理者としての経理が適切になされている。

改善すべき点

書の専門家向けにではなく、一般向けのグッズの開発を行うことも視野に入れる必要がある。

その他

経費縮減に努めるのは当然だが、貴重なコレクションの管理や、必要な人材の確保に困ることがないよう、十分留意してほしい。

2 総合評価

総合評価は、6 ページに示した基準に従い、「評価の観点」の結果に応じて評価を付した。

委員会の評価	良好	(【参考】区の評価：良好)
--------	-----------	---------------

委員のコメント

本館収蔵品の潜在力がすばらしいので、積極的、かつ、多角的に、この収蔵品を生かす道を模索してほしい。アンケートを見ると、書の関係者が圧倒的に多いように思われるが、もっと広い分野の人たちに興味を持ってもらえる収蔵品なので、一般人にもわかる企画、パンフレット、チラシ作りにも力を入れて、さらにファン層を開拓してほしい。また、「漢字」文化は、外国人の関心も非常に高い分野なので、外国人にも知ってもらえる、来てもらえるような努力もしていただきたい。

展示テーマの専門性より、一番縁遠い施設というイメージで訪問したが、当初の思惑を覆すほどの満足感というギャップを感じた施設であったということが言える。

学校等の校外学習利用の促進もあり、立地や展示テーマの特殊性の割に、今後存在価値がさらに認められる施設であることを予感させた。現パンフレットなどの書のみ直球での表現だけではなく、中村不折の自画イラスト等を活用して、親しみやすさをもう少し表現した方が良い。

魅力ある特別展を企画し、入館者数が年々増加していることは評価できる。書のマニアだけではなく、一般の人が楽しめる博物館になるともっと良い。本館にある収蔵品を活用した新しい展示を考えてほしい。

3 評価委員会から区への意見

委員のコメント

「書道」というと堅苦しいが、非常にユニークなコレクションを有しており、これは区の財産として、大きな可能性を有している。一刻も早くコレクションの全貌が明らかにできるよう、必要に応じ、外部資金の導入なども視野に入れつつ、サポートしてもらいたい。

本館までのアプローチの改善は、他施設同様、標識の充実等をお願いしたい。特に本館はホテル街を通過しての到達となるため、この道で本当にいいのかと不安になることは容易に予想できる。初めての人はかなりの確率で迷うことがあると思う。

施設名称	〔8〕 東京都台東区立書道博物館					
指定管理者の名称	公益財団法人台東区芸術文化財団	指定期間	H27.4.1 ~ H32.3.31			
1. 指定管理者の概要						
(1)業務内容	芸術文化、区民文化、スポーツ文化に関する事業の実施 芸術・文化・スポーツ施設の管理運営					
(2)類似施設の管理実績	文化施設 5 箇所					
(3)経営状況	27年度決算 歳入 617,374,153円 歳出 547,768,187円 収支差額 69,605,966円					
2. 施設の概要						
(1)所在地	台東区根岸 2 - 1 0 - 4					
(2)設置目的	洋画家でもあり書家でもあった中村不折が開設した書道博物館は、開館以来 6 0 年にわたり中村家が運営してきたが、平成 7 年に区が寄贈を受けた。不折の作品及び書道に関する収集品を広く一般に展示公開し、区民文化の振興を図る。					
(3)利用者	区民ほか					
(4)開館日・時間	開館日：休館日（月曜日 / 1 2 月 2 9 日 ~ 1 月 3 日 / 特別整理期間等）を除く 開館時間：午前 9 時 3 0 分 ~ 午後 4 時 3 0 分（入館は午後 4 時まで）					
(5)規模	延べ床面積 1,032.38㎡（蔵）16.52㎡ R C 造 平屋建（本館）247.93㎡ R C 造 2 階建て 第 1 ~ 5 展示室（中村不折記念館）764.83㎡ R C 造 3 階建て エントランスルーム、展示フロアー、特別展示室、中村不折記念館、会議室、事務室など					
(6)人員体制	8 名 常勤固有職員（ 1 ）派遣職員（ 1 ）区政嘱託員（ 1 ）研究員（ 2 ） 専門員（ 2 ）特例嘱託員（ 1 ）					
3. 事業（サービス提供）の概要						
(1)委託事業	博物館資料の保管及び展示、博物館資料に関する調査及び研究などの事業 施設・付帯設備及び物品の保全・調整、施設内の清潔整頓、その他環境整備等の事業。施設使用料徴収などの事業。					
(2)自主事業	特別展「顔真卿と唐時代の書」、企画展 中村不折コレクション「不折が愛した中国・南北朝の書」、「漢字のヒ・ミ・ツ」、みんなが見たい優品展「書のスケッチ『臨書』の世界 手習いのあとさき、王羲之から不折まで」					
4. 予算決算の推移						
		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算	委託料	32,906,000	30,152,000	22,651,000	26,446,000	23,584,000
	利用料金収入	0	0	0	0	0
	その他収入	0	0	0	0	0
	管理経費	32,906,000	30,152,000	22,651,000	26,446,000	23,584,000
決算	委託料	32,335,170	28,325,400	21,873,371	26,347,104	21,813,513
	利用料金収入	0	0	0	0	0
	その他収入	0	0	0	0	0
	管理経費	32,335,170	28,325,400	21,873,371	26,347,104	21,813,513
	収支	0	0	0	0	0
5. 施設の稼働状況等（活動指標）						
指標名称	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	
開館日数	日	274	266	272	277	
6. 成果指標						
指標名称	単位	目標値 （29年度）	25年度	26年度	27年度	
入館者数	人	15,000	12,525	13,442	15,400	

7. 平成27年度評価結果に対する現在までの取組み

新たな来館者サービスとして開始した年間パスポートは大変好評で、売上を伸ばすのと同時にリピーターの増にも繋がった。また、貴重な資料を多数保有する利点を生かした、東京国立博物館との連携事業の特別展や、漢字の成り立ちを収蔵品で紹介した企画展も好評で入館者数を伸ばした。

8. 評価項目
 3：協定等の水準を上回っている。 0：協定等の水準を下回っている。
 2：協定等の水準どおりである。 -：評価対象外項目。
 1：おおむね協定等の水準だが課題がある。

評価の観点	評価項目			
(1)事業の運営 平均 [2.3]	(a)施設の目的達成 [2]	(f)開館時間等の遵守 [3]	(g)自主事業の成果 [3]	(h)個人情報保護 [2]
	(b)サービス水準 [3]	(i)緊急時対応 [2]	(j)警備・防犯体制 [2]	
	(c)職員配置 [2]			
	(d)職員研修 [2]			
	(e)案内・接遇 [2]			
(2)施設の維持管理 平均 [2.0]	(a)建物保守・設備機器点検 [2]	(e)危険箇所等の確認 [2]	(f)管理記録の作成・保存 [2]	(g)業務委託の事前承認 [2]
	(b)備品の管理 [2]	(h)省エネ・省資源・環境配慮 [2]		
	(c)清掃・衛生管理 [2]			
	(d)施設の修繕 [2]			
(3)利用者の満足度 平均 [2.4]	(a)利用者・第三者機関の評価 [2]	(d)利用しやすい環境整備 [3]	(e)関係団体・地域との関わり [2]	
	(b)苦情・要望への対応と報告 [2]			
	(c)利用者数等の目標達成 [3]			
(4)収入支出 平均 [2.0]	(a)適正な予算執行 [2]	(c)収支計画の達成 [2]	(d)利用料等の徴収・管理 [2]	
	(b)管理経費の効率化 [2]			

9. 評価
 S（水準以上）：協定等の水準を満たし、一部に水準を上回る内容がある。
 A（適正）：協定等の水準を満たす管理が行われている。
 B（一部課題あり）：協定等の水準を満たしているが、一部に課題がある。
 C（課題あり）：協定等の水準を満たしているが、課題が複数ある。
 D（水準未滿）：協定等の水準を満たしていない。

評価の観点	評価	説明
(1)事業の運営	S	ギャラリートーク参加者への年間パスポートのPRや、展示替えに伴う臨時休館期間を必要最低限に抑え開館日数を増やすなど、来館者サービスに積極的に取り組んだ。
(2)施設の維持管理	A	貴重な資料の保存・保護のために収蔵品の修理については計画的に執行できるよう、区へ計画書の提出を行っている。また施設の修繕についても小まめに連絡があり、軽微なものについては基本協定書に基づき管理業務経費で行っている。
(3)利用者の満足度	S	年間パスポートの発行は固定のファンに好評で満足度も高い。また、東京国立博物館と連携した特別展をはじめ、漢字の成り立ちを収蔵品で紹介した企画展も好評で夏休み期間中には児童・生徒の入館者数を伸ばした。
(4)収入支出	A	事業の効率化に努めながら、適正に予算の執行がなされている。

10. 総合評価 良好 妥当 要努力 要改善 不適

良好	貴重な資料を多数保有する利点を生かした特別展をはじめ魅力ある企画展、年間パスポートの効果的なPRや開館日数の増など管理運営の工夫が入館者増に繋がった。
-----------	---

11. 平成28年度評価結果に対する今後の対応

今後も資料の保存・保護に配慮しながら関係各所と連携した魅力ある事業を展開し、重要文化財等の貴重な資料の展示公開を行っていく。また、年間パスポートのより効果的なPRや開館日数の確保に取り組みながら、入館者数の維持を目指す。